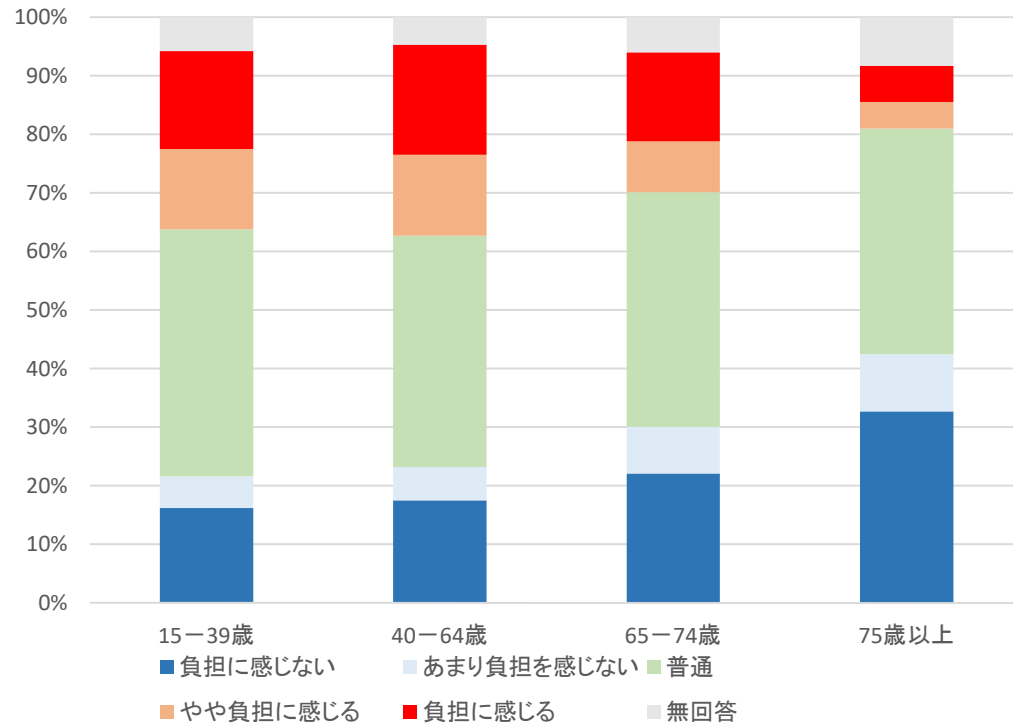


参考：高齢層と若年層の収入、支出、貯蓄残高の比較

2020年11月24日 翁百合

図1 外来患者の内訳 病院で請求された金額の負担感



(出所)平成29年受診行動調査から作成

- 75歳以上の高齢者は、医療費の負担をほぼ感じていないのに対し、若年層の負担感は大きい。

図2 年齢階層別平均収入

(歳)

(出所)厚生労働省社会保障審議会医療保険部会資料に加筆
データは国民生活基礎調査(2019年)

- 20代の平均年収は200万円程度であり、現状2割負担の70-74歳の年収と同等であるが、3割自己負担をしている。
- 例えばがん外来治療のケースで以下のような自己負担の差が生じる。75歳以上(1割):約14万円 20代(3割):約40万円

表1 年齢層別にみた200万円未満年収家計の消費と資産の実態
(二人以上世帯)

	(円)			
	世帯主30歳未満 ①	世帯主70歳以上 ②	①-②	①/②
世帯主年齢	26.3	77.1		
消費支出	156,238	142,566	13,672	1.1
食料	37,411	46,900	-9,489	0.8
住居	31,517	11,299	20,218	2.8
被服履物	5,293	3,576	1,717	1.5
保健医療	4,939	9,037	-4,098	0.5
交通通信	24,506	14,565	9,941	1.7
教育	2,902	59	2,843	49.2
年間収入	144万円	149万円		
貯蓄残高	118万円	845万円		
負債残高	43万円	19万円		
持ち家率	15.50%	76.80%		

(出所) 全国消費実態調査(2014年)から作成

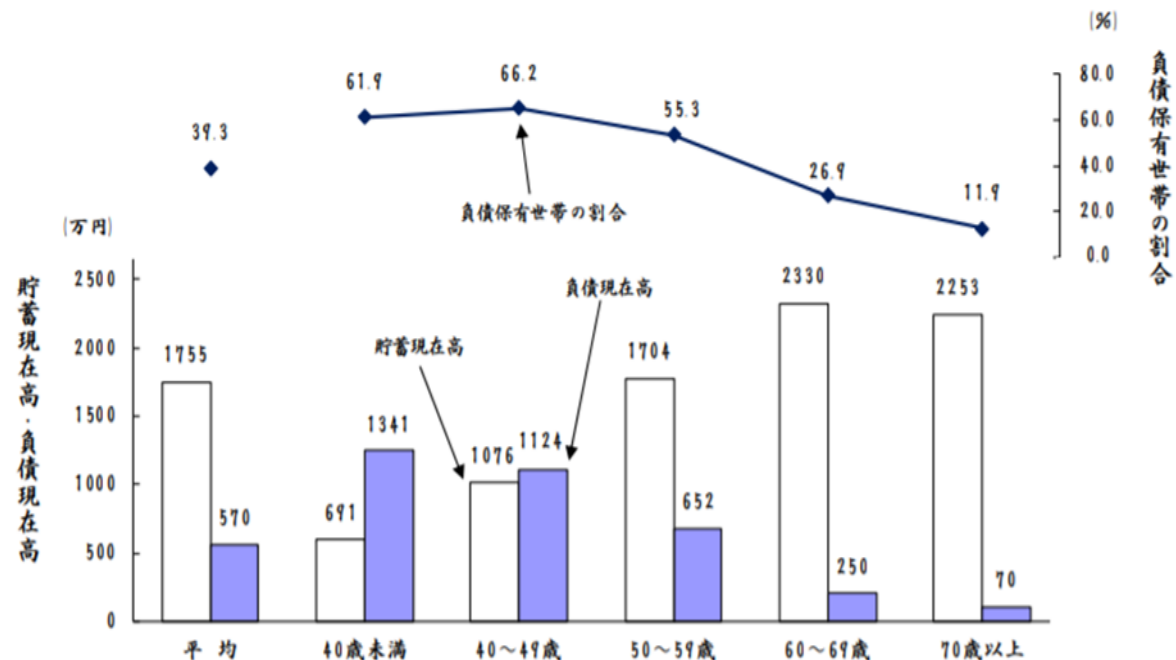
(注) このほかに健康保険料を負担(平均で4割は高齢者への支援金)。

20代後半平均の健康保険料は年間24.8万円、75-79歳は年間7.9万円(厚労省推計)。

- 若年層と高齢層の年収200万円未満の生活を比較すると、20代は持ち家比率が低く、家賃支払いがかさむ。貯蓄残高は20代118万円に対して、70歳以上は845万円。
- 消費支出以外に、健康保険料を支払い、高齢者の支援にも充てられている。

- 現在の年金の所得代替率は61.7%であるが、30年後、50.8%に低下。(2019年財政検証 ケースⅢ)

図3 年齢階層別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合
(二人以上の世帯)



(出所) 家計調査年報(2019年)

- 70歳平均では2,200万円の貯蓄残高超過。40歳未満は負債超過。